

地区だより

VOL 23 1994.10.26
発行 西湘放射線技師会

今年には本郷、中静両先生が定年を迎え、杉本先生が現役を去りました。今後も健康にてご活躍されるよう望みます。

本会が技師会に名称を変え本年ではや10年、改めて「地区だより」創刊号から目を通した。私が当時の地区委員で技師会創立に始まり、25周年式典（中静会長）・西湘フェスティバル（橋本実行委員長）・30周年式典（宗方会長）など大きなイベントが歴代会長の元で実行されてきた記録や地曳網などその時々様子を綴る多くの会員の投稿を読み返してみると、本会が整然と「一つの心」で発展してきた様子を伺い知ることが出来る。

言うまでもなく今日の活動の礎は「西湘Xレイ研友会」（飯塚、水澤他発起人）に始まり、歴代地区委員の地道な努力継承を忘れることなく今後もしっかり「西湘カラー」を保ちつつ活動していきましょう。

次に「大学院設立寄付金」未納の会員へお願いしたい。なぜ寄付するのかあなた自身がしっかり考えてみてください。よく理解をされて、一刻も早い振り込みをお願いしたい。タイミングは待ってくれません。振込用紙紛失の方は大木会長又は坂本地区委員へ連絡下さい。

西湘放射線技師会 副会長 山田 孝



地区委員会報告

期日：平成6年9月16日（金） 18:30～

場所：神奈川県技師会会議室

1. 理事会報告

1) 大学院設置協力基金について

県技師会では平成7年3月末日までに、目標額1250万円を目指し、募金を呼び掛けております。西湘地区における割り当て額は75万円です。8月30日現在で23%の17万円集まりました。県全体としては30%の募金率です。今後、ボーナスの時期でも結構ですので是非、ご協力をお願い致します。

2) 生涯教育記録手帳

県技師会が発行している黄緑色の表紙の生涯教育記録手帳を求められた方も多と思います。この手帳は将来、地区における勉強会でもカウントが取れる様、現在検討中です。

目的等は日本放射線技師会で発行しているものと変わりはありませんので、研修会、セミナー等へ参加される際は必ず持参して下さい。

3) 学校問題について

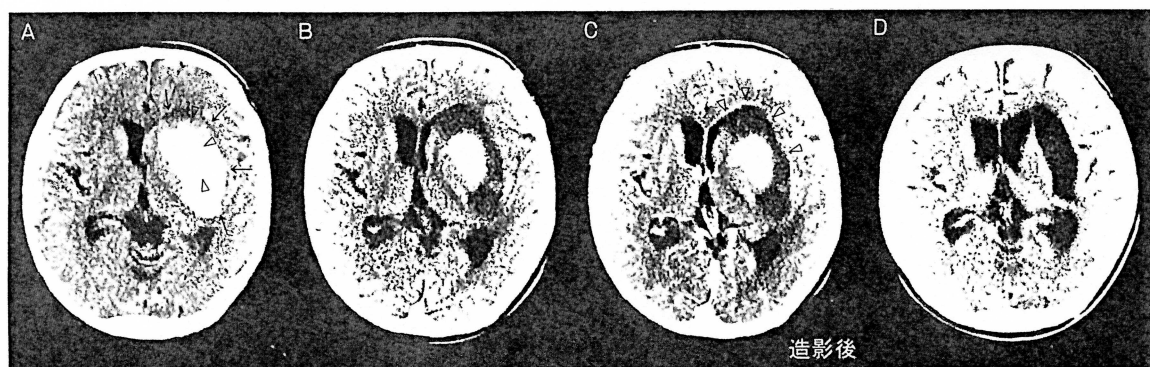
毎回、県技師会でも専門学校等3年制の設立については反対し、目を光らせているのですが、現在、沖縄、鹿児島、大分、埼玉、又県内では昭和大学の3年制専門学校設立構想が芽を吹き返しております。

神奈川県としては学校の定員80名を見込んでいるとのことで、現在、北里大学（4年制）で50名、残り30名足りない訳であり、30名定員の3年制専門学校設立を申請された場合、県行政としては承認される可能性もあり、県技師会としてはこれ以上絶対増やす事を阻止しなければなりません。3年制専門学校設立に関する情報がありましたらどんな小さな事でも早めにお知らせ下さい。

2. 地区委員からのお願い

日本放射線技師会雑誌8月号に『わが国における診療放射線技師の需給見通しの資料』による結論から、「わが国全体としての診療放射線技師不足の実態はない」「今後は“人員の不足”から“人材の不足”へ需給計画を検討する必要がある」と締め括っているように、これからは我々の職域の将来を考えていかなければなりません。毎年行われる県の医療監視においてはご承知のように、医師、看護婦、薬剤師については医療法で定員が決められていますが、我々放射線技師には業務上細かいチェックを受ける割には技師数については何も具体的数値の法的位置付けはされていません。最近特に腹立たしい事はテレビドラマや新聞の募集欄でレントゲン技師やエックス線技師と呼称されている事です。先月9月29日の読売新聞で東京・多摩で脳性小児マヒの女性にレントゲン技師にわいせつ行為を受けたと掲載されていました。その真相はともかくとして、我々放射線技師の社会的地位は低すぎます。会員の中で放射線技師の職域の発展を喜ばない会員はいないと思います。「放射線技師の教育は放射線技師で！」をスローガンに一日も早く大学院を設立しなければなりません。そのためにも是非、大学院設置募金と、これ以上専門学校を増やさないためのご協力をお願い致します。

(坂本)



A : 発症後10時間

B・C : 12日後

造影後

D : 2ヵ月後

結論、皆さん鈴鹿医療技術大学に大学院を設置するための寄付を忘れずに御願いたします。すでに寄付をしていただいた方には大変申し訳ございません。

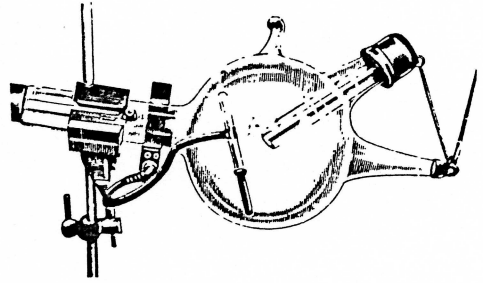
大変な書出しに成りましたが、酷暑の今年の夏、盛夏と思わせる日中の気温も近ごろは虫の音、日ごとの雨と共に和らぎ、実りの秋を満喫させる今日この頃です。西湘地区放射線技師の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申しあげます。

昭和26年の身分法の制定からもうすぐ半世紀、来年はX線発見100年記念行事を各国、各関係団体で計画されているようです。このような時期に日放技では、母体と成って設立した鈴鹿医療技術大学に大学院を設置するよう、大学側に要望書を提出すると共に、資金の一部を募金活動を開始しました。神奈川県技師会に於ては事務所拡充募金と二重の募金活動に成ってしまいました。事務所拡充募金も開始から7年目？、購入金額の約30%800万円、大学院設立募金は1年間で約1,200万円を目標は空突に思われます。一人1万円は大きな金額です。しかし先人が、現在の日放技会長を始め各県会長、役員諸氏が法改正、業務拡大に取り組んできたのは自分の為だけでは無かったはずです。

一代で巨万の富を得る人、子孫に美田を残さずと勝手な解釈で自分だけが享乐的に過ごす人、種々多様な人生を送る人たちも多いと思いますが、一般の人は子の為、孫のためと、その子、孫の出来不出来は別にして将来を考えるのではないのでしょうか。良い例が森林ではないかと思ひます、近年までは（最近では後継者不足で国内では荒れ始めています）、山には、孫のためにせつせと植林をし、下刈り、枝打ちと50年、100年先を見据え、苦痛と考えず、先人の偉業を受継ぎ後に続く者の為に骨身を惜しみませんでした。私達会員一人一人も現在自分の立場を見つめ、過去の色々な職業の盛衰を経済の変化、社会変化のためだけと捉えないで、カッコウの仲間のように他人まかせの子孫繁栄を願う様なことをせず、自分自身で後輩の将来に放射線技師の職業が、一生の職業として希望を持てる職種と成るように努力と喜捨を御願いたします。募金目標を達成することにより自分自身に誇りを持ち又、日放技及び県技師会の運営を付託した役員の方々への後盾となるとともに、後輩が技師職のみならず、教育者、管理者への道を開いていくことが、会の発展に繋がると思ひます。

西湘技師会々長の職務から見ると会則から離れる部分もあると思ひますが、一放射線技師又、日放技の会員で在ることを考えると皆さんと共に協力を惜しんではいけないのでは無いかと思ひ、西湘地区放射線技師の方々に御願いを致す所存です。

病 院 紹 介



湯河原胃腸病院

大川 修

病院紹介の話を地区の役員の方からいただき、丁度、当院25周年の記念の年に紹介させていただく事になり感謝しております。

当院は、神奈川県西の端、静岡県との県境に位置する湯河原町に昭和44年に創立しました。

湯河原は、海、山があり自然が味わえる温泉町です。当院も温泉を持っていますので患者さんには大変好評です。

施設としましては、鉄筋6階建延べ3,144㎡の建物です。

診療科は、胃腸科、内科、外科、皮膚科、泌尿器科。

ベット数120床、職員数109名、(内レントゲン室スタッフは、技師3名、事務・助手2名)です。

設備といたしましては、一般撮影装置の他にX線TV2台(東芝DAW-30A・島津ZS-50)、乳房撮影装置(島津MR-30)、全身用CT(横河Presage)、ポータブル(田中RCB1250)、レーザーイメージャー(コニカLi-7)、オートインジェクター2台(根本杏林堂)等が設置されています。

消化器の専門病院としては、神奈川県西部から伊豆半島一円にかけての患者さんが、診察に来られます。X線検査としましては、胃の透視が減少し、かわりに注腸の検査が増加の傾向です。この事は、生活様式が洋風化してきたからだと思われます。

当院も他の施設の様に、技師の不足に悩んでおります。消化器検査に興味をお持ちの方は、これを御覧になられましたら御一報を下さい。紙面をお借りして願います。

94年秋

西湘放射線技師会



学術から講演会のお知らせ

前回のお知らせ通り、平成6年度秋期学術講演会を開催いたします。
多忙な日々と存じますが、皆様の参加をお待ちしております。
詳しい内容については、前回のお知らせをご参考にしてください。

日時：平成6年11月11日（金）

開演6時30分～8時30分

場所：小田原市中央公民館 第2会議室

（小田原市役所裏） ☎0465-35-5300

1. 『最近の画像処理ワークステーション』

GE横河メディカルシステム 松岡 慎一先生

2. 『河原の呟き…』

イシケンスポーツ 石川 政彦先生

第2会議室の会場は70名まで入れます。人数的には余裕がありますので
会員の知り合いの方で今回の講演に興味のある方はご参加ください。
問い合わせは学術（高野）まで 0465-34-3444 丹羽病院 放射線科

※前回の案内で、講師の石川正彦先生の名前が誤字でした。正ではなく政でした。
お詫び申し上げます。

ボーリング大会報告

一般的に球技スポーツ、特に野球においては“れば”“たら”を口にしてはいけないと言われている。もしもあの打球が抜けていればとか、あの打球がストライクだったら・・・といった「もしも・・・」の憶測のところが前提にすると結果に悔いが残ってしまうからだろうが、逆に、よりファミリー的なスポーツにおいてはそれが楽しい部分でもあるように思う。企画する者にとっては、この景品をどの順位にしようか、優勝賞品はどれにしようかといったことで、参加競技者は自分の力量を測りどの位の順位（景品）を目標にしようかといった憶測があって実に楽しいものがある。

さて今年度もまた好評？に付き、安直な企画のボーリング大会と食事会を催した。今年が目玉賞品はミニコンボで役員一同、抽選にするかクジ引きにするか悩んだあげく、得点順位通りの当日賞10月18日の18位に決定することになった。はたして、その栄冠は誰の頭上に輝くのか興味深々であり、大方の下馬評予想では例年強運の千葉氏ではとの見方が強かったのだが・・・

5分間の練習ボールの後午後6時35分、市立病院より参加の紅一点、野地嬢のはにかみながらの始球式では微笑ましいものを感じられ、総勢50名の熱き戦いの火蓋が切って落とされたのであった。

皆、それぞれの思惑を胸にゲームに没頭するも1ゲーム終了時の中間発表のテロップにて、第一位に千代田メディカルの金沢氏195ピン、第二位に富士フィルム健康管理センターの杉本先生190ピン・・・が流れまじはともかく高齢者（失礼）が頑張っているのに驚かされた、そして又今回もハイレベルな戦いになったものだと痛感したのは私だけだったのだろうか1ゲーム目で諦め中間位を目標にする人、2ゲーム目から頑張る人などなど、色々な人間性が見られ実に趣のある熱き戦いであった。

昨年例もある由、大半の人が賞品はクジ引きと思って臨んだ表彰式、大木会長挨拶の後、1位から順にの授与となりはやくも人目はミニコンボ

へと・・・はたして東京都よりわざわざ参加して下さった小池氏の頭上に18位の栄冠が・・・役員一同遊び心もあって購入したかなり重量もある賞品の持ち帰りに心配したのだったが、その心配をよそに、氏の狂喜乱舞する表情には幹事一同、氏以上に感じ入るものがあり、巨人や西武のようにビールをかけてやりたい心境であった。その後の歓談・カラオケと進み9時45分、宴もたけなわであったが時間の制約もあり、山田副会長の心なごむ閉会の挨拶の後、散会となり三々五々ネオンの街へと帰路についたのであった。

余談ではあるがちなみに千葉氏は6ピン差で19位、次点に泣いたのである。『おしかったね！千葉先生』『次回、また頑張ってください』。

今回も福利厚生の怠惰な企画の基に多くの皆様が参集して頂き、本当にありがとうございました。

原稿締め切りも明日に迫り乱雑文になったことも合わせ誌面上にて深謝致します。

ともかく無事済んで良かった、良かった。 安堵！ 安堵！

福利厚生 中根 精



入会欄

新入会員

印刷局小田原病院
山近病院

渡辺 義巳
大久保 実彦

訃報

本会結成当初より今日まで、多大なご尽力を頂いております飯塚芳郎先生の奥様が
ご逝去されました。

飯塚 園子 様 享年60才

10月2日 午後4時42分
東海大学病院 入院療養中にて

ご冥福を深くお祈り申し上げます。

編集後記

平成4年10月号の『地区だより』以来、久しぶりの10ページでの発行になりました。
このことは、山田副会長が巻頭言でも言っていますが、会員の心が一つになっている表れ
だと考えています。毎年10月号は、催し物の案内・報告等で原稿も苦勞せずに集まるよう
で、本来なら原稿依頼にあちこち出歩く時間をその分編集に回すことができました。
この次の新年号もこの調子でさばききれない程の原稿をお待ちしております。

「とく」

